

[学びによるまちづくり]

学区ブランド産品「富より団子」がつなぐ学校と地域

奈良県奈良市／^{とみ お}富雄中学校区学校支援地域本部

■活動の目的・概要

- 地元の資源に着目し、農産物やその加工品に対し、ネーミングやパッケージの企画開発をし、又「展示」「販売」を目的としたPR方法を考える「学区ブランド産品開発プログラム」に、中学校区に設置された地域教育協議会や運営委員会で活動する地域コーディネーターが集まり、子供たちとともに取り組みました。
- 地域コーディネーターと学校が協力して「生きたキャリア教育」に取り組むことにより、学校地域連携のさらなる発展を目指しました。



■活動の特徴・工夫

- 平成20年度より全市(公立 幼・小・中)で文部科学省の「学校支援地域本部事業」を始めましたが、事業をすすめる中で、各校区におけるコーディネーター人材の有無や必要とされるコーディネート機能等の違いが事業効果に温度差を生じさせてくるようになりました。さらなる事業推進には中核となるコーディネーターの育成が欠かせないとのことから、文部科学省の実証的共同研究などに参加しながら、市内各地域で地域連携活動をすすめました。
- 初年度は富雄中学校区内の一つの小学校である鳥見小学校の5年生が「総合」の時間を使って取り組みました。「古代米」に着目し、白米に混ぜる『う米米(うまいまい)』を考案し、「奈良のお土産として」をテーマにCM作成、チラシ作り、パッケージデザインに取り組みました。
- 次年度は小学校での取組を富雄中学校が引き継ぎ、古代米を使ったお菓子作りに有志が集まった40名の生徒と地域コーディネーターが10種類以上のお菓子の試作に取り組み、商品を「古代米をまぶしたゴマ団子」に決定しました。
- その後「ただの手作りにとどまらず、近隣のお店で 売ってもらえるような商品」を目指して取り組みました。
- 商品開発、ネーミング、チラシ、パッケージの各チームに、2,3名のコーディネーターが担当として付き添い、地域の団体や近隣の製造、小売り関係にお勤めの方など、たくさんの方々に相談することによって、商品化・販売に結び付くように応援いただきました。また、学校の教員からは取組へのアドバイスが加わり、地域と協力企業、学校が一体となった活動になりました。
- ゴマ団子は「和菓子バージョン」と「中華菓子バージョン」を作ることとなり、和菓子バージョンは、老舗和菓子店の協力による制作が決定し、さらに中華菓子バージョンは、株式会社の協力で冷凍食品としての制作が決定しました。



研究成果物
「コーディネーター教本」
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/report/2010.html>



中華菓子バージョン

■ 立ち上げ当時

○平成22年度、コーディネーターのスキルアップも目指していることから、活動に直接かわるのは管理職とコーディネーターとし、他の教職員には関心をもって温かく見守っていただけるよう、職員会議で説明しました。

○生徒の意見やアイデアを尊重しつつも「販売」につなげるための厳しさも学習しました。

また、多くの方々に助けていただきながら、地元企業を中心に協力企業をコーディネーターが手分けして探しました。企業の方々も中学生の言葉に真剣に耳を傾けていただき、地域の子供たちの成長のためという想いを共有できたことから、地域の教育力を実感できました。



企業へのプレゼンテーション

■ 展開・現在

○単年度のプログラムであったため、生徒のプロジェクトチームは平成23年度末で解散し、その後の取組を新しく設立した部活動「ボランティア部」が継承しました。

○ボランティア部だけでなく、全校生徒の財産として引き継いでいくため、キャリア教育の材料としても活用しています。また、生徒の発案により実施したアンケート調査から「給食への採用」の意見が多数あり、市長、教育長へのプレゼンテーションを経て学校給食のメニューとして採用が決定しました。



奈良市長・教育長へ『富より団子』給食採用のプレゼンテーション

これらの取組は、子供たちの学びを支援することはもちろん、企業・団体や住民にとっても地域参画のきっかけ、学びの機会となっており、子供たちと共に育つ地域づくり（地域振興）が進んでいる。

■ 今後の展望・課題

○中華菓子バージョンを製造時に使用した油を利用し、ボランティア部と「放課後子ども教室」が共同で『エコ石けん』を作りました。

また、ユニセフへの寄付を目的にチャリティー販売を行ったり、中学校敷地内で栽培した「古代米」のワラを使って『しめ縄』を作るなど、『富より団子』の製作プロセスから派生した新たな取組が進んでいます。



小中合同しめ縄づくり

○地域と学校が連携した『富より団子』の取組が様々な取組へと発展しています。これらの教育プログラムの開発を通し、地域におけるコーディネーターの発掘・育成が進んでいます。この『富より団子』の取組も、地域の財産として継承するためにさらに発展した活用を考えています。